

新たに荒川先生が着任され、久しぶりに常勤医の増員となり11名体制で診療を行った。荒川先生は麻酔科を専門とされているが、当院では救急医療を中心に診療を行っている。またペインクリニック外来を新たに開始した。

外来体制は、循環器科・呼吸器科・消化器科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・心臓血管外科・内科外来の他に乳腺外来・大腸肛門外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来・禁煙外来の特殊外来等に変化はなく、新患者数3,874名、再診患者数36,092名、年間の総受診者数は39,966名だった。紹介患者は2,015名で前年度より13名増加した。

365日・24時間体制で救急外来を提供した。救急外来では、年間の受診者は4,601名で、救急車搬入では795名を受け入れた。熊本のドクターヘリと連携し緊急性の高い重症患者はヘリによる3次救急への搬送を行っており、前年度は5名をヘリ搬送した。搬送の内訳は、外傷1名、循環器疾患4名だった。病床数が通所リハビリの開所に伴い140床から128床へと減少し、救急患者すべてを収容できないこともあり今後の課題としている。

延入院患者数は42,711名で、科別入院患者数は内科5,600名、外科12,110名、整形外科8,994名、循環器内科2名、消化器内科9,968名、腎泌尿器科6,037名であった。

外来化学療法室は、手術後の治療成績向上や、延命／緩和を目的として外科・消化器科・呼吸器科・泌尿器科で延べ145名が利用した。化学療法には副作用も伴うが、生活の質を落とすことなく安全で最大限の効果を得られるように各スタッフの協力の下に行っている。

当院は、急性期治療を終えてリハビリを行い在宅復帰するための中間施設としての役割も主要な柱である。回復期病棟と地域包括ケア病床が受け皿となり、在宅復帰率は回復期病棟90.7%、地域包括ケア病床85.7%だった。また退院した後も継続的に支援を行うために訪問リハと通所リハを備えている。今後さらに拡大し、在宅においても元気に、生き生きとした生活を送れるようにサービスを提供していきたいと考えている。

済生会の基本方針としての生活困窮者への生活全般への支援をMSWが中心となり取り組んでいる。2017年度は無料低額診療事業の実施率は5.03%であり、10%を目標として活動している。

地域医療研修のため当院では研修医を迎え入れている。2017年度は済生会熊本病院と済生会横浜市南部病院から計6名が各1カ月の研修を行った。急性期病院では経験すること

ができない地域での医療の実態をみるほぼ初めての経験となっている。各研修医とも今までにない様々な経験を吸収しようと積極的に取り組んでいる。将来の地域医療を支えていける人材を育てるための重要な機会を提供することが当院だけでなく当地域の大事な役割となっている。